

西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書（10）

緊急畠地帯総合整備事業（安城地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

日 守 遺 跡

1999年3月

鹿児島県西之表市教育委員会

序 文

種子島は、温暖な環境と豊かな自然に恵まれた島で、昔より多くの人々が生活を営み、文化を育んできました。その結果、島内各所から遺跡が数多く発見されています。特に、平成5年度に発掘調査を行った西之表市立山の「奥ノ仁田遺跡」では縄文時代草創期の土器、石器が多数出土し、関係者から注目を浴びています。

今回調査を行った日守遺跡は、西之表市の東南部安城大野に位置し、発掘調査は平成6年から平成8年まで3度にわたり実施されました。その結果、縄文時代早期の土器・石器等が出土し、調査の結果を本書にまとめました。本書が学術的文献として広く活用されることをもとより、市民の皆様の埋蔵文化財に対する関心とご理解を深めていく一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本書の刊行及び発掘調査に関して多大なるご協力を賜りました鹿児島県教育庁文化財課、鹿児島県立埋蔵文化財センター、安城校区、各関係者に対して心より感謝の意を表します。

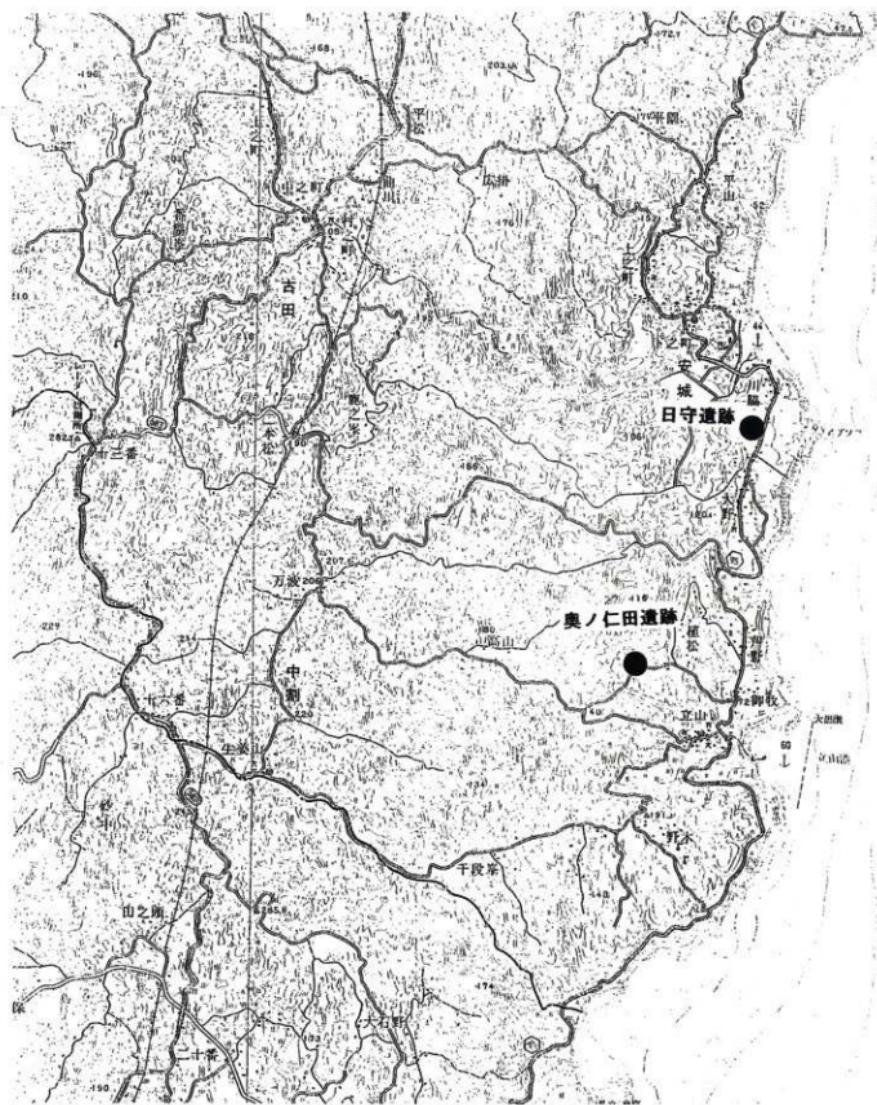
平成11年3月
鹿児島県西之表市教育委員会
教育長 鎌 田 一 正

報告書抄録

ふりがな	ひもり いせき							
書名	日守遺跡							
副書名	緊急畠地帯総合整備事業（安城地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	10							
編集者名	沖田純一郎							
編集機関	西之表市教育委員会							
所在地	〒891-3193 鹿児島県西之表市西之表7612番地							
発行年月日	1999年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
日守遺跡	鹿児島県	462136	81	30° 25' 30"	131° 130° 10' 11"	19941205 ~ 19941222 19951002 ~ 19951022 19961021 ~ 19961108	2,038 m ²	緊急畠地 帯総合整 備事業
	西之表市							
	安城大野							
	日守							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
日守遺跡	散布地	縄文時代早期	集石2基	土器 (吉田式) (倉園B式) (下剥峯式) (桑ノ丸式) 石斧 磨石 敲石 石皿等				

例　言

1. 本書は、緊急畠地帯総合整備事業（安城地区）に伴う日守遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は鹿児島県農政部（熊毛支庁土地改良課）の委託を受け、西之表市教育委員会が実施した。
3. 本書に用いたレベル数値は、鹿児島県農政部（熊毛支庁土地改良課）が作成した地形図に基づく海拔高である。
4. 本書の遺物番号は、全て通し番号で本文及び挿図・図版番号と一致する。
5. 発掘調査における測量・実測・写真撮影は沖田・鹿児島県立埋蔵文化財センター弥栄久志（平成6年度）・児玉健一郎（平成7年・8年度）が行った。
6. 本書の執筆と編集は沖田が行い、実測および浄書は沖田・高橋恵子・中村桂子が行った。
7. 写真図版の遺物撮影は沖田・種子島開発総合センター委託職員尾形之善氏が行った。
8. 発掘調査及び整理作業に関して、鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・協力を得た。
9. 出土遺物は西之表市教育委員会で保管し、展示・活用する。



第1図 日守遺跡の位置

目 次

第1章 調査の経過	1	(2) 石器	9
第1節 調査に至るまでの経過	1	第4章 平成7・8年度の調査	11
第2節 調査の組織	1	第1節 調査の概要	11
第3節 調査の経過	2	第2節 層序	11
第2章 遺跡の位置及び環境	5	第3節 遺構	14
第1節 遺跡の位置	5	第4節 遺物	15
第2節 周辺の遺跡	5	(1) 土器	15
第3章 平成6年度の調査	7	(2) 石器	16
第1節 調査の概要	7	第5章 科学分析	46
第2節 層序	7	第6章 調査のまとめ	50
第3節 遺物	9	付 編 西之表市日守遺跡の火山噴出物	52
(1) 土器	9		

挿図目次

第1図 日守遺跡の位置	26
第2図 日守遺跡と周辺遺跡図	6
第3図 土層柱状図	7
第4図 確認調査出土遺物	9
第5図 土層断面図	12
第6図 日守遺跡グリッド設定図	13
第7図 集石実測図	14
第8図 遺物出土状況図(1)	17
第9図 土器出土状況図	18
第10図 土器出土状況図	19
第11図 遺物出土状況図(2)	20
第12図 土器実測図(1)	21
第13図 土器実測図(2)	22
第14図 土器実測図(3)	23
第15図 土器実測図(4)	24
第16図 土器実測図(5)	25
第17図 土器実測図(6)	26
第18図 土器実測図(7)	27
第19図 土器実測図(8)	28
第20図 土器実測図(9)	29
第21図 土器実測図(10)	30
第22図 土器実測図(11)	31
第23図 土器実測図(12)	32
第24図 土器実測図(13)	33
第25図 石器実測図(1)	34
第26図 石器実測図(2)	35
第27図 石器実測図(3)	36
第28図 石器実測図(4)	37
第29図 石器実測図(5)	38
第30図 石器実測図(6)	39
第31図 石器実測図(7)	40

表目次

第1表 周辺遺跡地名表	5
第2表 確認調査結果一覧表	10
第3表 土器観察表(1)	41
第4表 土器観察表(2)	42
第5表 土器観察表(3)	43
第6表 土器観察表(4)	44
第7表 石器観察表	45

写真図版

図版 1 作業風景・遺物出土状況	55
図版 2 集石・遺物出土状況	
土層断面・安城火山灰検出状況	56
図版 3 遺物出土状況	57
図版 4 遺物出土状況	58
図版 5 出土土器(1)	59
図版 6 出土土器(2)	60
図版 7 出土土器(3)	61
図版 8 出土土器(4)	62
図版 9 出土土器(5)	63
図版 10 出土土器(6)	64
図版 11 出土土器(7)	65
図版 12 出土土器(8)	66
図版 13 出土土器(1)	67
図版 14 出土土器(2)	68
図版 15 出土土器(3)	69
図版 16 発掘調査に携わった方々	70

第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県農政部農地整備課（熊毛支庁土地改良課、以下県農政部）は、西之表市安城地区において、緊急畠地帯総合整備事業を計画し、事業区内の埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育庁文化課（現文化財課、以下文化財課）に照会した。これを受け、県文化財課と西之表市教育委員会種子島開発総合センター（以下総合センター）は平成5年4月に分布調査を実施した。その結果、事業区内に日守A・B・C遺跡が所在していることが判明した。この分布調査結果をもとに、県農政部、県文化財課、総合センターで協議した結果、埋蔵文化財の保護と事業の推進を図るため、埋蔵文化財確認調査（以下確認調査）を実施することとなった。

確認調査は、西之表市教育委員会が調査主体となり、県立埋蔵文化財センター（以下県埋文センター）の協力を得て平成6年12月5日から12月22日まで実施した。調査の結果、日守C遺跡のみ、約1,400m²にわたり縄文時代早期の遺物包含層が残存していることが判明した（以下日守遺跡）。

その後、日守遺跡の残存部分の取り扱いについて県農政部、県文化財課、総合センターが再度協議を実施し、事業遂行上現状保存が困難な、ほ場の一部及び幹線道路の部分のみ平成7年度、8年度にわたり、緊急調査を実施し記録保存を図ることとなった。

緊急発掘調査は、西之表市教育委員会が調査主体となり、県埋文センターの協力を得て実施した。

第2節 調査の組織

事業主体者 鹿児島県農政部 熊毛支庁土地改良課

発掘調査主体者 西之表市教育委員会

発掘調査責任者 西之表市教育委員会 教育長 鎌田 一正
調査企画担当 種子島開発総合センター 所長 鮫嶋 安豊

〃 " 次長 下江 信吉
" " (H6年度)

〃 " 主査 奥村 学
(H7・8年度)

確認調査担当 西之表市教育委員会 種子島開発総合センター 主事 沖田純一郎
鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事 弥栄 久志

緊急発掘調査担当

西之表市教育委員会 種子島開発総合センター 主事 沖田純一郎
鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事 児玉健一郎

なお、当遺跡の出土遺物については、県立埋蔵文化財センターの指導助言を得た。土層については、鹿児島県立博物館の成尾英仁氏に、炭化物の年代測定は名古屋大学の奥野充氏から指導助言を得た。

第3節 調査の経過

確認調査は、平成6年12月5日から12月22日まで実施した。現況は畑と農道であった。緊急発掘調査は、平成7年10月2日から10月22日までと、平成8年10月21日から11月8日まで実施した。以下、調査の経過については、年度ごとの日誌抄を持ってかえる。

(平成6年度確認調査)

- 12月5日 日守C遺跡トレンチ9本設定、掘り下げ。
6日 日守C遺跡掘り下げ。日守B遺跡トレンチ5本設定。日守A遺跡トレンチ5本設定。
掘り下げ。
7日 B・C遺跡掘り下げ。
8日 A・B・C遺跡掘り下げ。A遺跡15トレンチから土器・石器出土。
9日 雨天のため作業中止。
10日 A遺跡トレンチ3本設定、掘り下げ。19・21トレンチより遺物出土。
B・C遺跡掘り下げ。
12日 B遺跡各トレンチ写真撮影、土層断面図作成、調査終了。A遺跡掘り下げ。
13日 A遺跡20トレンチより土器出土。15～19トレンチ遺物出土状況写真撮影。
C遺跡掘り下げ。
14日 A遺跡、22トレンチより土器出土。トレンチ1本設定。C遺跡各トレンチ清掃、写真撮影を実施。
15日 A遺跡トレンチ3本設定、掘り下げ。C遺跡各トレンチ清掃、写真撮影。
雨天のため午前中で作業終了。
16日 A遺跡29トレンチより土器出土。各トレンチ掘り下げ及び写真撮影。
C遺跡各トレンチ土層断面図作成。C遺跡調査終了。
17日 A遺跡トレンチ2本設定。33トレンチより土器出土。各トレンチ掘り下げ。
19日 A遺跡、各トレンチ出土遺物平板実測、遺物取り上げ。
20日 A遺跡20・29・33トレンチ写真撮影。トレンチ2本設定、掘り下げ。
36トレンチより土器出土。調査現場事務所にて熊毛支庁土地改良課、市耕地課と遺跡の取り扱いについて協議をおこなう。
21日 A遺跡の各トレンチ写真撮影、出土遺物平板実測、土層断面図作成。
22日 A遺跡土層断面図作成。各トレンチ埋め戻し作業。調査終了。

(平成7年度緊急発掘調査)

- 10月2日 グリッド設置。B-1・B-2区掘り下げ。
3日 B-1・B-2・B-3区掘り下げ。土器片出土。
4日 B-1・B-2区掘り下げ終了。B-4区掘り下げ開始。B-3区より集石検出。
5日 集石写真撮影、実測作業。B-4・B-5区掘り下げ、土器出土。出土状況写真撮影。
西側土層断面図作成。

- 6日 B—4・B—5・6区, C—4・5・6区掘り下げ。土器出土。
- 9日 B—4・5・6区, C—4・5・6区掘り下げ。土器多数出土。
- 11日 B—4・5・6区, C—4・5・6区掘り下げ終了。清掃作業。遺物出土状況写真撮影。A—1・2・3区掘り下げ。
- 12日 A—1・2・3区掘り下げ。土器石器出土。B—4・5・6区土層断面図作成。
B—4・5・6区, C—4・5・6区平板実測、遺物取り上げ。
- 13日 B・C—6区平板実測、遺物取り上げ。A—1・2・3・4区掘り下げ。
- 14日 A—1～4区掘り下げ。土器出土。西之表市文化財少年団発掘体験学習。
種子島を語る会現場見学。
- 16日 A—3・4区掘り下げ。A—3区掘り下げ終了。A・B—4区土層断面図作成。
- 17日 A—4・5・6区掘り下げ。A・B・C—7区（耕作道路部分）掘り下げ、遺物出土。
出土状況写真撮影。平板実測、遺物取り上げ後、埋め戻しを行う。A—1～3区出土
状況写真撮影。平板実測、遺物取り上げ。
- 18日 A—4区写真撮影、平板実測、遺物取り上げ、掘り下げ終了。A—5・6区掘り下げ。
調査区域周辺地形測量を行う。
- 19日 A—5～8区掘り下げ。雨天のため14時で作業終了。
- 23日 A—5・6区写真撮影、平板実測、遺物取り上げ、掘り下げ終了。
A—5・6区土層断面図作成。A—7・8区掘り下げ。土器、石皿等出土。
- 24日 A—8区掘り下げ。土器出土。
- 25日 A—7・8区、写真撮影、平板実測、遺物取り上げ。
- 26日 A—7・8区、平板実測、遺物取り上げ、掘り下げ終了。
A—7・8区、土層断面図作成。調査終了。

（平成8年度緊急発掘調査）

- 10月21日 グリッド設置。A—14・13掘り下げ。
- 22日 A—14・13区掘り下げ。土器、石器出土。
- 23日 A—14・13区掘り下げ。土器、石器出土。集石検出。
- 24日 A—14・13区掘り下げ。遺物出土状況写真撮影。集石検出作業。
- 25日 A—14・13区掘り下げ。平板実測、遺物取り上げ。A—12区掘り下げ。
- 28日 A—14・13・12区掘り下げ。土層断面図作成。
- 29日 A—14・13・12区掘り下げ。集石実測作業。A—12・11区掘り下げ。
- 30日 A—14・13・12区掘り下げ。土層断面図作成。遺跡の遺物包含層破壊の件で、調査
現場において熊毛支庁土地改良課、土地開発公社と協議を行う。
- 11月1日 A—14・A—12区掘り下げ。遺物出土状況写真撮影。平板実測、遺物取り上げ。遺
跡の遺物包含層破壊の件で、調査現場において熊毛支庁土地改良課、土地開発公社と
協議を行う。
- 6日 A—12・11区掘り下げ。遺物出土状況写真撮影。平板実測、遺物取り上げ。集石実測。

7日 A-14区遺物出土状況写真撮影。平板実測、遺物取り上げ。A-13・11区掘り下げ。
8日 A-13・11区遺物出土状況写真撮影。平板実測、遺物取り上げ。土層断面図作成。
調査終了。

(発掘調査作業員)

平成6年度

徳永眞理男 上妻チズ子 日高シノブ 上妻ナミ子 高橋イズ子 東エイ子 前之園信子
川原アタミ 川原純子 川原アサ子 小倉アイ子 宮園京子 小倉信子 山口キヨ子
山口アキ 江口テル子 江口玲子 森モト 森リエ子 長野フミ子 山口良子 松田スヤ子
山口久美子 松田カズエ 山口マサエ 西川スエ子

平成7年度

徳永眞理男 櫻元清志 遠藤ハツ子 竹ノ内綾子 上妻ナミ子 日高アヤ子
上妻チズ子 櫻元セツ子 田上亥年 鮫島美伊子 川原アタミ 川原純子
山下スエ 原崎タマ 小倉アイ子 小倉信子 小倉ムツ子 宮園京子 小倉鉄夫
森次直 松田カズエ 松田スヤ子 山口マサエ 山口久美子 長野フミ子

平成8年度

遠藤ハツ子 上妻チズ子 日高シノブ 上妻ナミ子 河路君江 竹ノ内綾子
櫻元セツ子 鮫島美伊子 東エイ子 田上イツエ 田上亥年 小川亀雄
川原アタミ 小倉アイ子 宮園京子 小倉信子 小倉鉄夫 松田スヤ子
江口玲子 山口久美子 山口マサエ 山口良子

(整理作業)

高橋恵子 中村桂子

第2章 遺跡の位置及び環境

第1節 遺跡の位置

種子島は大隅諸島の一つであり、本土最南端佐多岬から大隅海峡を隔てた、東南約40kmの海上に位置する。面積は447km²、南北54km、東西のもっとも幅広い部分で12km、最狭部で6km、最高地点は282.3mに過ぎない、低く平坦な島である。北から西之表市、中種子町、南種子町と1市2町からなる。種子島の南西には屋久島があり、その南には弧状に点々とトカラ列島、奄美大島、沖縄諸島と続いている。

地形は丘陵性の山地、海岸段丘、河川付近の沖積低地からなるが、最大の特徴は全島にわたり台地状や浜堤上に砂丘が発達し、海岸段丘は、7~8段の発達が見られることである。

地質は第三紀に堆積した砂岩、頁岩の互層である熊毛層群が基盤岩となり、その上を砂岩、シルト岩からなる茎水層群、礫層や砂層などの増田層や長谷層、竹之川層などが不整合におおい、さらにその上に数枚にもおよぶ火山灰ローム層が堆積している。

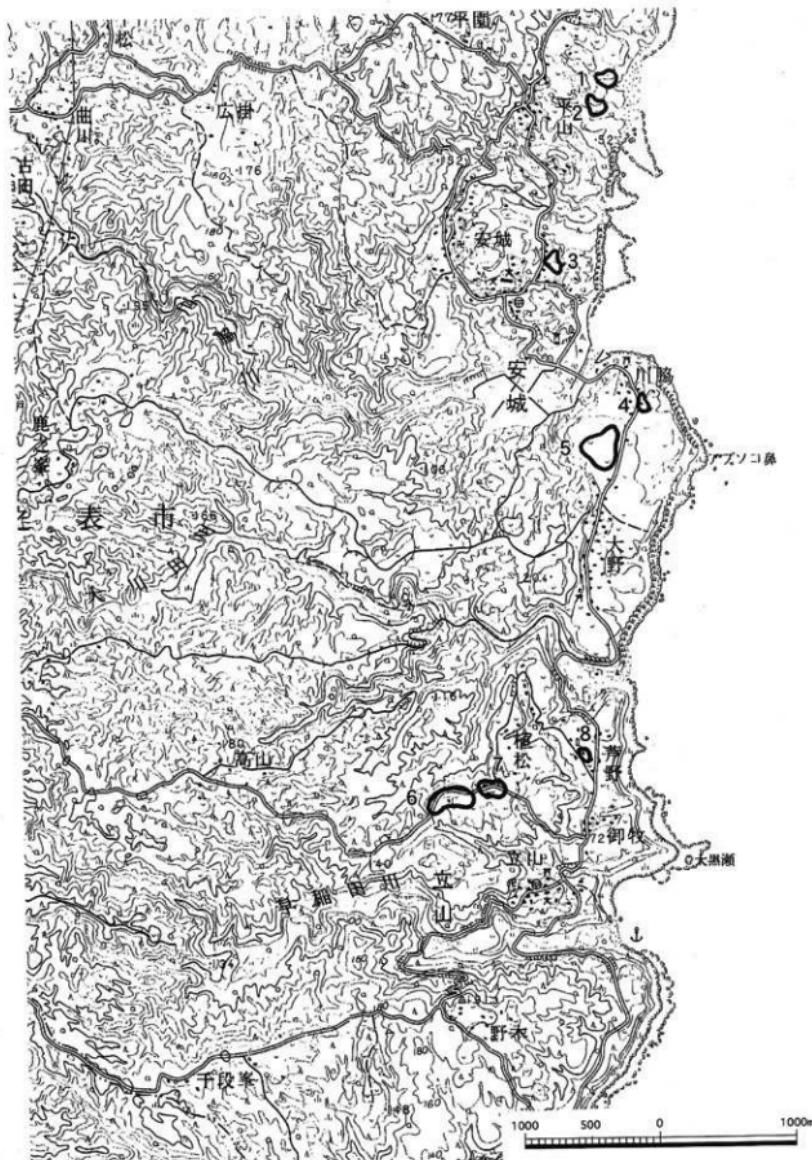
日守遺跡は、西之表市安城大野に所在する。遺跡一帯は海岸段丘のつくる平坦な地形面で標高約84mから78mまでゆるやかに東側に傾斜している。緊急発掘調査を実施したのは日守遺跡の範囲のうち畑地帯総合整備事業で、設計変更できなかった部分と、は場内を走る幹線道路工事区域にかかる部分である。

第2節 周辺の遺跡

日守遺跡は、太平洋に臨む台地上に位置する。周辺は、海岸段丘のつくる平坦面や小さな谷が入り組んだ山間地帯である。周辺遺跡としては、縄文時代草創期、早期の遺跡が所在する。平成9年度の分布調査では、牧野遺跡で墳墓文土器片が採集されている。

第1表 周辺遺跡地名表

No.	遺跡名	所 在 地	地 形	時 代	遺 物	文 献 等
1	牧野	西之表市安城平山	台地	縄文草創期	土器片	平成9年度 分布調査
2	二俣野	西之表市安城平山	台地	縄文早期	土器片	
3	仮屋園	西之表市安城下之町	台地	縄文早期	土器片	
4	川脇	西之表市安城川脇	台地	縄文早期	土器片	
5	日守	西之表市安城大野	台地	縄文早期	土器・石器	本報告書
6	奥ノ仁田	西之表市安城植松	台地	縄文草創期・早期	土器・石器	平成5年度 発掘調査
7	奥嵐	西之表市安城植松	台地	縄文早期・後期	土器片	
8	九郎三エ門	西之表市安城芦野	微高地	不明	土器片	平成3年度分布調査



第2図 日守遺跡と周辺遺跡図

第3章 平成6年度の調査

第1節 調査の概要

平成6年度の確認調査は、調査区内（約16,000m²）にトレンチを任意の大きさで設定し、必要に応じて拡張しながら遺跡の範囲・性格を掘む調査を行った。日守A遺跡に20本、B遺跡に6本、C遺跡に11本、計37本のトレンチを設定した。調査の結果、日守A遺跡のみ遺物包含層が確認され、遺跡の範囲は、当初予想した面積の約3倍にまで広がることが確認された。日守B・C遺跡については耕作等により遺物包含層は消失していることが確認された。遺物は、15、19、20、22、34トレンチから縄文時代早期の貝殻で施した土器が出土し、29、33トレンチからは無文土器が出土した。16トレンチの土層では、黄橙色でブロック状に堆積している火山灰層が検出された。この火山灰層は、16トレンチのみでしか確認できなかった。確認調査は、平成6年12月5日から12月22日まで行い、調査面積は288m²であった。日守A遺跡のみ遺物包含層が確認されたため、以後A遺跡を日守遺跡と呼ぶことにした。調査終了後、熊毛支庁土地改良課と協議を行い、事業実施上設計変更が困難な部分と、幹線道路のみを平成7年度・8年度にかけて調査することになった。

第2節 層序

遺跡の層序は、場所によっては一部の層が欠落していることもあるが、基本的に次のように区分する事が出来る。まず表層があり、その下位に黒色腐植土、明黄橙色の火山灰層、そして遺物が出土するベージュ色のローム層と続き、黒色腐植土、黄橙色火山灰層、黒色腐植土、黄褐色～青灰色ローム層、赤橙色火山灰層の順で堆積している。

V	V	I 层 表 層	耕作土
		II 層 黒色腐植土	真黒色、粘質なし
		III 層 明黄橙色火山灰土	(アカホヤ) 上位から下位へアカホヤ火山灰、幸屋火碎流、幸屋降下軽石の3層に区分できる。
		IV 層 ベージュ色ローム層	遺跡包含層。場所により乳白色、淡赤褐色に変化する。下位の層との境界は不規則に入り組んでいる。
		V 層 黒色腐植土	弱い粘質のある黒色土、乾燥すると縦にクラックが入る。

第3図 土層柱状図

V層 黄橙色火山灰土

きわめて細粒の火山灰であり、全体的に硬質でブロック状の堆積物である。軽石や岩片の混入は認められない。厚さはほぼ一定の15cmである。16トレンチのみで確認され、他のトレンチでは全く堆積していない。上下の層との境界はシャープで明瞭な堆積状態であり、一次の火山噴出物である。牛之原遺跡報告書（鹿児島県立埋蔵文化財センター 1996年）に報告されている第V層に類似するものと思われる。成尾氏の見解によると、本土の大隅・薩摩半島南部では該当する層が認められることなどから、噴出源は鬼界カルデラか口永良部の火山の可能性が高いが、噴出源を特定できないので、噴出源未詳のまま安城火山灰と仮称している。

VI層 黒色腐植土

粘質の強い土層で、色調の違いにより2層に区分することもできるが、不鮮明で漸移している。下部にあるローム層とも漸移している。

VII層 黄褐色～青灰色ローム層

色調の違いや硬さなどにより大きく5層に区分され、下位にしたがって、やや汚れたベージュ色、明るいベージュ色、黄褐色ローム、硬質の青灰色ローム、黄褐色ロームとなる。風化が進んで粘土化しているが、下部のATの二次堆積物と考えられる。

IX層 赤橙色火山灰層（AT・大隅降下軽石）

粘質の強い火山灰層で、始良カルデラ起源のAT火山灰に相当する。軽石はやや黄色を帯び全体にオガクズ状である。この火山灰層の下には、淡いベージュ色を帯びた粘質の強いローム層がある。

参考文献

西之表市日守遺跡の火山噴出物（成尾英仁1995）

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（18）

「牛之原遺跡」（鹿児島県立埋蔵文化財センター1996）

第3節 遺物

各トレンチの遺物出土状況は表2にまとめた。

(1) 土器

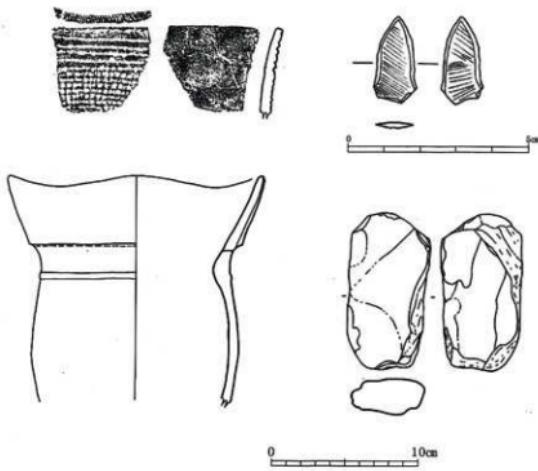
土器はIV層から出土し、出土したトレンチは15・19・20・22・27・29・33・34・36トレンチである。出土した土器の大部分は円筒形の器形で、口縁部はやや外反し、平坦な口唇部の上にヘラ状のもので、丁寧な連続する縦位の刻目を施し、口縁部には、貝殻腹縁を用いたと思われる横位の刺突文が数条あるものである。また、胴部は筒状で貝殻の腹縁を縦位に置き、押し引いて施文している。底部は外面の立ち上がり部分にヘラ状の工具と思われるものにより、縦位に刻目を施文しているものである。29・30トレンチからのみ、口縁部から胴部までほぼ復元できる無文土器が出土した。

29・30トレンチから出土したこの土器は、口縁部は大きく外反し、波状を呈し、胴部は丸みをもった円筒形を呈するものである。内外面は平滑なナデ整形である。土器の外面、内面ともに、スヌが付着している。

(2) 石器

石器が出土したトレンチは15・18・22・2トレンチである。15・18・22トレンチから出土したものは磨石・敲石類であるが、原型をとどめておらず、破損したものがほとんどであった。石材は砂岩である。

2トレンチから表層より粘板岩の剥片を素材とする、磨製石鎌が1点出土した。基部を一部欠いているが、長さ2.3cm、幅1.2cm、厚さ0.2cm、重さ2gの全磨製のものであり、両面を平坦に仕上げ、側刃は研ぎ分けて鋭い刃部を作っている。基部の裾部はやや広がる形状になると思われる。



第4図 確認調査出土遺物

第2表 確認調査結果一覧表

	トレンチ番号	規模(m)	遺構	遺 物	包含層深(cm)	トレンチ深さ(cm)
A 遺 跡	15	2×4	無	有 貝殻文系土器、磨石・石皿	70	90
	16	2×4	無	無		198
	17	2×4	無	無		157
	18	2×4	無	有 磨石・石皿	103	130
	19	2×4	無	有 貝殻文系土器	80	92
	20	2×4	無	有 貝殻文系土器	60	96
	21	2×4	無	無		64
	22	2×4	無	有 貝殻文系土器、磨石・石皿	66	90
	26	2×4	無	(炭化物)		122
	27	2×4	無	有 貝殻文系土器	45	158
	28	2×4	無	無		120
	29	2×4	無	有 無文土器	49	79
	30	2×4	無	無		91
	31	2×4	無	無		123
	32	2×4	無	無 (炭化物)		80
	33	2×4	無	有 無文土器	49	80
	34	2×4	無	有 貝殻文系土器	76	112
	35	2×4	無	無 (炭化物)	78	90
	36	2×2	無	有 貝殻文系土器	60	84
	37	2×2	無	無		110
B 遺 跡	10	2×4	無	無		90
	11	2×4	無	無		120
	12	2×4	無	無		87
	13	2×4	無	無		80
	14	2×4	無	無		108
C 遺 跡	25	2×4	無	無		86
	1	2×4	無	無		170
	2	2×4	無	有 表層より磨製石鎌出土		115
	3	2×4	無	無		110
	4	2×4	無	無		110
	5	2×4	無	無		50
	6・7	2×4	無	無	6T, 87 7T, 135	
	8・9	2×4	無	無	8T, 85 9T, 105	
	23	2×4	無	無		90
	24	2×4	無	無		55

第4章 平成7・8年度の調査

第1節 調査の概要

平成7・8年度の緊急発掘調査は、設計変更が困難な畠地の一部と、幹線道路部分を対象に行つた。工事用の幹線道路センター杭を基準に10m×10mのグリッドを設定し西側からA区～C区とし、北から南を列とし、1区から14区までとした。平成7年度は8区まで調査を行い、平成8年度は確定した幹線道路部分のみが調査対象となり、A-9区からA-14区まで行った。

平成7年度の調査終了後、8年度の調査予定部分を残し事業が着工された。事業実施にあたっては、遺物包含層が残存する部分は現状あるいは盛土工法により遺物包含層の保存を図ることで、合意がなされていたが、8年度の調査でA-11区から9区では遺物包含層が削平されていることが判明し、場内においても一部遺物包含層の削平がなされていることが確認された。そして、遺物包含層の削平状況を、現場にて事業主体者である熊毛支庁土地改良課に説明した。その後、平成8年11月5日、県文化財課にて西之表市教委、県文化財課、熊毛支庁土地改良課、県農政部本課の担当者が経過説明を行い、県文化財課は農政部に対して二度とこのような事態が発生しないようにと厳重注意を行った。

平成7年度の調査面積は約1,400m²、平成8年度は調査対象地の遺物包含層が削平を受けていたため、調査面積は約350m²となった。

第2節 層序

場所により多少の相違があるが、基本的には次のとおりである。確認調査の結果、V層以下からは遺物が出土しないことから、7・8年度の調査ではV層を基盤層として扱った。

I層 耕作土

II層 黒色腐植土 真黒色、粘質無し。耕作によりほとんど削平されている箇所が多い。

III層 黄色橙色火山灰 アカホヤ火山灰

IV層 ベージュ色ローム層 繩文時代早期の遺物包含層。場所により乳白色、淡赤褐色に変化する。V層との境界は不規則に入り組んでいる。

V層 黒色腐植土 弱い粘質のある黒色土。乾燥すると縦にクラックが入る。